

令和元年度 月刊 校長通信 2号

(生徒・保護者版) R元. 5.29 (5月号)



俊英NOW

○バラの通学路が満開になりました。



バラの通学路は、創立50周年(2010年)のとき整備されました。バラを見上げることで、うつむかず、前向きな姿で歩いて欲しい。そんな、窪田英一理事長の思いが込められています。しかし、手入れが不十分だったためか、花の勢いが少々かげっていたように思われます。それに気づいた1年4組の安田さんのお母さんが、娘さんと一緒に休日のたびに来校し、ボランティアで^{せんてい}剪定や^{まひ}施肥など、丹念なケアをほどこして下さいました。おかげでさまで、今年のバラは、勢いを取り戻し、美しく咲き誇っています。本当にありがとうございました。

○吉原弘隆先生が、素晴らしい作品を寄贈してくださいました。

信毎評
▽吉原聖舟 金文大学を大胆な運筆で布置した作。掲筆部の刀痕に刻字作ならではの味わいを見せている。



吉原聖舟(上田市)「福以德召」

国語の吉原先生は、雅号を吉原聖舟とする書道家でもあります。昨年の第71回長野県書道展に出品し、刻字部門で「特選」(最優秀賞)を獲得されました。その貴重な作品を本校に寄贈して下さいました。「福以德召」と書いてあるそうです。「福は徳を以って召^{まね}(招)く」(善良な心を持っていれば、幸福を招く)意味深い言葉であり、しかるべき場所に展示したいと思います。

もくしろく
「黙示録」の不思議

昔、『オーメン』（1976年）という恐怖映画があった。外交官夫妻に男の子が産まれるのだが、不幸なことに死産だった。たまたま、同じ産院で同じ日、同じ時刻（6月6日6時）に身元不明の女が男児を産み落としたまま亡くなったという。この夫婦は、内々にその子を引き取ることにする。ダミアンと名付けられたその子は、その後すくすく成長していくのだが、やがてダミアンの周辺で不可解な死亡事件が起こっていく。もしかしたら、この子は何か邪悪な血を引いているのではないか、と父親は疑^{うたぐ}り始める。産死した謎の女の墓を探し当て、掘り返してみると出てきたのは、雌^{めす}山犬の骨。眠るダミアンの毛をそっと切ってみると頭皮に「666」という痣^{あざ}が現れる。ところで、「666」という数字は何なのか。その出どころは、『黙示録』という本なのだ。……実は、『黙示録』を紹介したくてここまで書いてきた。ちょっと、まえおきが長かったかな？



私はキリスト教徒ではないが、『新約聖書』は愛読書の一つで、『新約聖書』は、私にとって「真実美しい人間＝イエス」（ドストエフスキーの言葉）を主人公とする世界文学全集の一冊である。ところが、『新約聖書』の最後にまったく異質な一書が付属している。それが『黙示録』である。若いころ初めて『新約聖書』を通読したとき、最後に来て唐突に始まる不気味で不可解な『黙示録』に面食らったものである。

『黙示録』は、西暦90年ごろ、ローマ帝国のキリスト教への残酷な弾圧の時代が本格化したころ書かれたものらしい。キリスト教徒は、『黙示録』のなかで想像のローマ帝国をメチャメチャに破壊することで憎しみを晴らしたのだろう。世界滅亡のイメージが、謎めいた言葉で語られるので、何を言っているのか、さっぱり分からない。

「666」という数字は、『黙示録』第13章第18節に登場する。「ここに智慧が必要である。思慮あるものは、けものの数字を解くがよい。その数字とはある人間をさすものである。その数字とは666である。」この一節により、「666」は以来、西欧では極めて不吉な数字とされてきた。なぜ、「666」なのか、についてはよくわからない。（※実は、「666」は、暴君として名高いローマ皇帝ネロを示すというのが最有力説である。）

もう一つ、別の記述を紹介しよう。『黙示録』に、7つラッパを7人の天使が順番に吹き鳴らすと次々に恐ろしいことが起こっていく、という記述がある。3番目のラッパが吹かれると次のようなことが起こる。

「すると、たいまつのように燃えているおおきな星が、空から落ちてきた。そしてそれは、川の三分の一とその水源の上に落ちた。この星の名は「^{にが}苦よもぎ」と言い、水の三分の一が「苦よもぎ」のように苦くなった。水が苦くなったので、そのため多くの人が死んだ。」（第8章10節）

これについてちょっと面白い話がある。上に出てきた「苦よもぎ」に当たる植物をロシアやウクライナでは、「チェルノブイリ」と言うのだそう。これが一時大きな話題になった。1986年、ウクライナのチェルノブイリ原発事故が『黙示録』ですでに予言されていた！ということになったからある。……（場違いな文章をくどくど書いてきましたが、マニアックな読書も、けっこう面白いと言いたかったのです。意のある所をお汲み取りください。）